

けんだいカラー — YPU 世界人ニュース —

・ 構成員

- 代表者 : 王 芹 (国際文化 学科 1 年)
会計 : 中村彩佳 (国際文化学研究科 1 年)
指導教員 : 張 玉玲 (国際文化 学科)
メンバー : 魏 宏洋 (健康福祉学研究科 2 年) 大石千紘 (国際文化 学科 3 年)
呉 暁良 (国際文化学学科 1 年)

・ プロジェクトの目的

日本人学生やアジア・欧米からの留学生のそれぞれの視点から捉えた日本と世界の文化を県大生新聞の形で地域に発信することによって、地域の方々(高校生含む)及び県大生自身の異文化理解を促進することと元気いっぱい活発な県大生の特徴「けんだいカラー」をアピールすること。

・ 活動内容

1. 新聞の内容、担当と募集のテーマなどの決定(6月)

- ①6月下旬から始まるグローバル交流活動への取材を決めた。
- ②原稿募集のテーマを決めた。
- ③けんだいカラーFacebookの作成を提案した。



2012 グローバル留学生
浴衣体験

2. 原稿募集ポスターの作成、配布、グローバル交流活動の取材

けんだいカラーFacebookを作成(7月)

- ①原稿募集のポスターを作成した。
テーマ: 留学・海外旅行の感想・驚いた事や豆知識など
1000字以内
- ②配布: 掲示板、食堂、売店など
- ③けんだいカラーFacebookを作成した。
- ④グローバル交流活動の浴衣体験、茶道体験、スピーチコンテストなどの活動取材した。



スピーチコンテスト
最優秀賞受賞した趙さん

3. テーマと内容の再検討(10月)

- ①原稿募集がうまくいかなかったため、新聞の内容を再検討した。
- ②各国の季節の食べ物を取材することにした。
- ③カナダ留学生の日本留学感想とグローバル交流スピーチコンテストで最優秀賞を受賞した趙さんの原稿を使わせてもらうことにした。

4. 留学生への取材、ルーさんと趙さんに原稿依頼(11月)

- ①アメリカ人、カナダ人、スペイン人、韓国人の留学生そして日本人学生に取材して、原稿を編集した。
- ②ルーさんの原稿を和訳、編集した。
- ③趙さんの原稿を編集した。



旬の食べ物の取材

・成果及び感想

留学生の視点から見た山口、日本の文化を捉えることができました。そして、インタビュー形式で、いくつかの国の文化や風習を比較し、紹介することができました。また、高校、駅、公共施設へ配布することによって、地域の方々に異文化を紹介し、カラフルな県大をアピールすることもできます。

一昨年は「留学生新聞パンダの足跡」の発行にも参加して、ある程度の経験を積んだつもりでしたが、今回「けんだいカラー」の発足から発行まではまたいろいろな挑戦や失敗がありました。今回のメンバーは大学院生3人と学部生2人の合計5人でした。当時プロジェクトを申請するとき、メンバーのスケジュールがよく把握できていなかったため、プロジェクトが始まってから、それぞれの時間を合わせる事がなかなかできず、進行計画をうまく進められませんでした。もう1つの大きな失敗は、原稿募集に頼りすぎたことです。募集した原稿を新聞のメインに設定しており、原稿が集まらなかった時の対策も即時に出せなかったため、一時的にプロジェクトの進行が止まってしまいました。

今回、「けんだいカラー」を発行することによって、計画などを立てるときに、起こり得る困難や出来事を予測することが大事だということとチームワークの大切さが分かりました。そして、初めてネット印刷会社を使って印刷し、便利に見えるインターネットの不便な点や危険な点にも気付きました。またそれ以上に、多くの交流活動に参加することができ、私たち自身も異文化交流と理解を深めることができました。

・指導教員のコメント

本プロジェクトは、本学で学ぶ、中国やカナダなど世界各国からきた留学生や日本人学生のそれぞれの視点から見た世界と自国文化を紹介し、相互理解を深める目的で立ち上げられたものです。メンバーらは、勉強、バイトなど忙しい学生生活を送りながら、自分たちが感じた日本、山口そして宮野を題材に、YPUの学生による新聞を作成してきました。「日本が大好き」という留学生たちのそれぞれの個性やカラー（color）を残すべく、文章も日本語の修正をせずにしました。諸事情により一回しか発行できませんでしたが、冒頭に述べた学生たちの本来の目的が達成できましたし、今後の活動にも期待できるのではないかと思います。

・収支報告

配分額		85,000 円
支出内訳	印刷代	17,700 円
	振込手数料	315 円
	原稿募集チラシ	800 円
		円
支出合計		18,815 円
残金		66,185 円